



新社会党東京都本部委員長

江原ひであきアピール 2005.7

江原ひであき事務所

中野区南台 2-32-1 電話(03)3381-7656 FAX (03)3383-8535

ホームページ <http://www7.ebara.or.jp/ebara-hideaki/>

Eメール hide-eba@cameo.plala.or.jp

都議選で「変革への議席奪還す！」

独裁政治を倒そう！

次は「中野の再生」、本物の自治に！

中野駅周辺を大資本の餌場にさせない！

子育て、教育、福祉は企業に売らない！

都議会議員選挙が終わりました。中野では、公、民、共、自が議席を獲得しました。私は共産党の植木さんを支援しました。中野、東京、日本の政治を変えなければと思うからです。植木さんの当選は単に共産党の議席回復だけではありません。中野から政治の現状を変革するために大きな意義があるのです。なぜか！

小泉(自公)政権は、規制緩和と構造改革で日本の社会構造を‘はちゃめちゃ’に破壊し、理性や論理を軽視、短絡的で二者択一、没知性の軽薄社会にしてみました。イラクへの派兵、靖国参拝、郵政民営化等々は(暴)力とその数による強制そのものです。その上、弱肉強食の強い者勝ちで、貧富の差を著しく拡大しました。結果、失業者が増え商店街やコミュニティが崩壊し、人心が荒み極悪非道の犯罪が急増しました。

一方で、日米軍事一体化政策を推し進め、戦争のできる国めざして憲法や教育基本法改悪を企てています。

石原(自公)都政は、日の丸・君が代の強制で思想信条、人権を蹂躪し差別を増長し、暴力的で強権的、憲法をも無視する傲慢さです。なのに、議会も幹部職員もマスコミ関係者も石原知事の恫喝的言動に圧倒され、これまで沈黙してきました。福祉を切り捨てて大規模開発を推進し、事業の民営化の一方で都営銀行の設立などやりたい放題。まさに、慇懃無礼な独裁的政治が跋扈し、民主主義が大きく破壊されています。

田中(自公?)中野区政は、市民派 100%(役人 100%を偽り)を語って誕生したことを忘れ、自治の理念を捨てた形式的区民参加を進め、“根拠のない長期計画”を「基本構想」と称して策定し、中野の街を大資本の餌場に提供しようとしています。

区民が人間らしくくらすために最も必要な(基本的政策)、子育て、教育、福祉等の諸政策を企業に(利益追求の手段)提供しながら、恥じることなく自治の改革と公言しています。

この三つ(小泉、石原、田中)の権力の共通点は、 に新自由主義経済の下に弱肉強食を当然視し、大資本本位の経済政策、 に官から民への論理で行政事業を企業に売り渡す、 に“トップの結論先ありき”のイエスマンによる側近政治、独善的な強権政治ではないでしょうか。

私にはこのような歴史に逆行する政治の現状を放置しておくことができません。したがって、今回の都議選では、地元で自民党の川井候補がいましたが、私は政治に関わる者として共産党の植木候補を全面的に支援したのです。当然のことながら植木候補の政治姿勢は反小泉、反石原、反田中です。

植木候補は石原側近?を自認する川井候補を破り第三位当選を果たしました。
この事は“中野の政治の再生”に大きく役割を果たすでしょう。

中野区民は4年前の都議選で革新(共産)の一議席を失いました。自民党が2議席を獲得したのです。1年後の区長選挙で“えせ市民派 100%”の田中区長が生まれました。以来3年、中野の自治は質的に大きく変えられました。「株式会社・中野」に変わろうとしています。そうさせてはなりません!

これまでの基本構想は「ともにつくる人間のまち中野」の理念の具現化をめざしたものです。それに基づく「地域センターと住区協議会」の設立は住民自治の普遍的理念を有する先駆的な試みでした。

「憲法擁護 非核都市宣言」や「憲法を生かそう くらしに中野のまちに」、また「教育委員候補者選り準公選」などはこうした自治の理念の下に創造されたものです。

いま、私たちは「この中野の自治」を“復権”させなければなりません。“中野の再生”とはこのことです。都議選で「政治変革の一議席」の獲得は、中野から政治を変える足がかりです。

始めましょう! 市民(区民)の話し合いを! 労働者(組合)の話し合いを! 学者・文化人(教授や弁護士等)等の話し合いを! 政党などの話し合いを! 区職員の話合いを!

そして大きく大同団結しましょう! 中野から、中野の自治再生めざして! 中野の、東京の、日本の、アジアの、世界の政治を人民のものに変えるために! 起って行動しましょう!

(05年7月7日 江原ひであき)